（別紙様式３）

令和３年３月 31 日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長　殿

住所　　愛媛県松山市一番町四丁目４－２
管理機関名　　愛媛県教育委員会
代表者名　　田所　竜二　印

令和２年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を，下記により提出します。

記

１　事業の実施期間
令和２年５月８日（契約締結日）～　令和３年３月 31 日

２　指定校名・類型
学校名　　愛媛県立小松高等学校
学校長名　森岡　淳二
類型　　プロフェッショナル型

３　研究開発名
生活文化の伝承と多世代交流
共生のまちづくりに貢献する人材の育成

４　研究開発概要
⑴　地域課題研究を各科目に位置付け、体系的・系統的に学習するカリキュラムの研究
⑵　学習指導方法の研究
１年次　地域の生活産業・生活文化を知り、課題を考える。
２年次　地域の生活産業・生活文化、多世代交流、共生のまちづくりを研究し、課題解決を図る。
３年次　地域の生活産業・生活文化を広め、多世代交流、共生のまちづくりに取り組み、地域に貢献する。
⑶　地域課題研究の評価方法の研究
⑷　コンソーシアムとの連携の在り方についての研究

５　学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無
・学校設定教科・科目　[開設している]　・　開設していない
・教育課程の特例の活用　活用している　・　[活用していない]

6　運営指導委員会の体制

氏　名	所属・職	備考
羽藤　堅治	愛媛大学地域協働センター西条・センター長	学校教育に専門的知識を有する者
藤田　昌子	愛媛大学教育学部（愛媛県家庭科研究会）・教授（会長）	学校教育に専門的知識を有する者
眞鍋　　明	株式会社マルブン・社長	学識経験者
玉井　宏治	西条市小松総合支所・所長	関係行政機関の職員
曽我部米治	西条市小松公民館・館長	関係行政機関の職員
久保　浩治	愛媛県立西条農業高等学校・校長	学校教育に専門的知識を有する者

7　高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者	
愛媛大学地域協働センター西条	センター長	羽藤　堅治
日本つばき協会支部　愛媛・小松つばき会	会長	佐伯　　隆
株式会社マルブン	社長	眞鍋　　明
（株）Ｄｅｃｏ	代表	處　　淳子
西条市立小松小学校	校長	藤原　正三
西条市立小松中学校	校長	岡田　　光
西条市小松総合支所	所長	玉井　宏治
西条市小松子育て交流センター	所長	古宅　成美
西条市小松公民館	館長	曽我部米治
愛媛県農林水産部漁政課	課長	橋田　直久
愛媛県教育委員会高校教育課	課長	島瀬　省吾
愛媛県立小松高等学校	校長	森岡　淳二

8　カリキュラム開発等専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習実施支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発等専門家	藤岡英子	元高等学校家庭科教員	会計年度任用職員として雇用 週３時間程、本校で勤務
地域協働学習実施支援員	處　淳子	（株）Ｄｅｃｏ代表	会計年度任用職員として雇用 週３時間程、本校で勤務

9　管理機関の取組・支援実績

⑴　実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンソーシアム検討会議				1回								1回
カリキュラム開発等専門家出勤			3回	3回	1回	3回	3回	3回	3回	3回	3回	3回
地域協働学習実施支援員出勤			1回	4回	2回	1回	3回	3回	3回	3回	3回	3回
運営指導委員会				1回								1回

⑵　実績の説明

ア　管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について

・　椿の消しゴム判子の活動を実施した「まちかど家庭科室～ふらっと～」は、コンソーシアム構成団体の（株）Ｄｅｃｏの代表で、地域協働学習実施支援員でもある處淳子氏が立ち上げた小・中学生と高校生の交流事業「小松未来塾」を発展させたものである。今年度は、コンソーシアム構成団体である小松中学校の協力も得て小松中学校の生徒・保護者や地域の方を対象に実施した。

・　「商品開発に向けて」をテーマにコンソーシアム構成団体である株式会社マルブン社長の眞鍋明氏に、商品化に向けての流れやマーケティングの要素についての講義をしていただいた。

・　魚食文化研究では、愛媛県農林水産部漁政課より愛媛県産の真鯛の有効活用について紹介があり、鯛を使った学校給食メニューの開発に取り組んだ。コンソーシアム構成団体である小松小学校の協力を得て、開発したメニューが実際の学校給食メニューの一部に取り入れられ、子どもたちに食べてもらうことができた。また、魚食普及も兼ねて、学校を訪問し、メニューの紹介等を行った。

イ　事業終了後の自走を見据えた取組について

・　椿文化の継承は、小松つばき会や西条市小松総合支所から強く要望されている。また、この取組は、椿薫る小松地域の文化継承の活性化につながるものである。主な活動である「椿千年の森」の整備や「椿カレンダー」作成等の活動は、小松つばき会や西条市小松総合支所と連携して実施していることから、経費の面からも継続が可能であると考えている。

・　多世代交流の活動は、本事業実施前から保育園・幼稚園・高齢者福祉施設などにおける実習でも行われており、本事業実施期間中に実施方法の工夫や改善を行うことで、事業終了後も地域活性化に寄与できる事業として継続することができる。

・　学校給食メニューの開発については、小松小学校だけでなく、西条小学校や小松幼稚園でもメニューとして取り入れていただいた。今後も本県漁政課と連携し、魚食普及を目的とした学校給食メニューの開発と提供に継続して取り組むことができる。

10　研究開発の実績

⑴　実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
科目「課題研究」「生活産業基礎」他における地域での探究学習				1回		1回	2回	1回		1回	2回	1回
外部講師による講義・演習				2回		2回	3回	1回		3回	4回	
校外研修						1回	1回	1回	1回	3回	2回	2回
交流活動				1回	1回	1回						
地域との協働によるコンソーシアムの構築				2回	2回	3回	3回	2回		1回	2回	3回

⑵　実績の説明　　※対象生徒：ライフデザイン科　1年29人　2年32人

①　研究開発の内容や地域課題研究の内容について

ア　研究開発	
㋐　椿文化（西条市小松町の「椿文化」について、小松つばき会・西条市小松総合支所と連携して、いかに生活文化を伝承するか研究し、普及活動を実施した。）	
【染色】４月「課題研究」で、椿の花びらを収穫。剪定後の葉と枝を回収。花びらと葉と枝で染色を行った。絹のストールや糸を染色し、花びらは色鮮やかなピンク色に、葉と枝は黄色く染め上がった。しかし、時間が経つと退色していくので、管理方法に工夫が必要である。	２年 32人
【児童文化財の製作】６月「発達と保育」で、椿文化普及のための玩具や壁面構成を考え、作成した。	２年 31人
【「椿千年の森」の整備】７月27日(月)奉仕活動として、小松中央公園内にある「椿千年の森」の除草・ゴミ拾い等の整備を実施した。西条市小松総合支所や公民館にも呼びかけを行い、地域の方と一緒に実施することができた。	１年 29人 ２年 32人
【椿の消しゴム判子講習会】８月29日(土)小松中学校において、中学生と地域の方に椿の消しゴム判子を作る講習会を開催した。生徒が講師となり、椿文化の普及に努めた。	１年 ３人
【水引細工講習会】９月24日(木)「課題研究」で、えひめ伝統工芸士の篠原啓子氏(マルショウ株式会社)をお招きして椿の水引細工の講習会を実施した。作成した水引にチャームやピンを付けて、西条市小松総合支所や公民館、子育て交流センターなどに配布した。	２年 32人
【椿の実の採集】９月29日(火)「課題研究」で、小松つばき会の指導を受けながら椿の実を収穫した。椿の実は天日干しで乾燥させ、種と種殻に分別した。	１年 29人
【児童文化財の活用】11月「発達と保育」の保育実習で製作した椿に関する児童文化財を保育所へ持参し、子どもたちとレクリエーションを行い、交流した。椿について身近に感じてくれる機会となった。	２年 31人
【椿のネームプレート製作】11月「課題研究」で、小松つばき会の協力の下、「椿千年の森」に咲く椿の花に番号を付ける管理作業を行った。オリジナルのネームプレートを作成し、花を確認しながら木に取り付けた。	２年 31人
【椿の商品開発】２月「課題研究」で、マカロンやバスボムの商品を考え、企画書を作成し、試作をした。	２年 17人
㋑　魚食文化（「魚食文化」について、地域人材を招いて学習し、レシピ開発・加工品開発のための料理教室等に取り組み、普及活動を実施した。）	
【講演会】７月30日(木)「課題研究」で、魚を使った学校給食メニューの開発のため、小学校栄養教諭武方美由紀氏と野菜ソムリエの年森恭子氏による「地元食材を生かした学校給食」の講演会を実施した。西条市産の旬の野菜と学校給食の特徴や栄養面について学んだ。	２年 31人
【学校給食メニュー開発】８月「課題研究」で、愛媛県産の真鯛を使った学校給食メニューを各自で考案し、試作した。試作したオリジナル料理の発表会を実施し、３品を選出した。	２年 31人
【シーフード料理コンクール】９月「課題研究」で、魚を使ったシーフード料理コンクールに応募するオリジナル料理を考案し、調理を実施した。西条市で水揚げされる鯛や鰆、エビなどを使用してレシピ開発に取り組んだ。	２年 17人
【児童文化財の活用】９月「発達と保育」で、魚食普及のためのエプロンシアターを作製した。オリジナルのストーリーを考え、フェルトで魚などを作成。小学校と幼稚園で実践した。	２年 ６人
【魚料理講習会】10月13日(火)「家庭総合」で、漁協女性部の川又由美恵氏・稲井藤美氏による「魚料理講習会」を実施した。アジを三枚におろすコツを学び、南蛮漬けを調理した。	１年 29人

【学校給食メニュー開発訪問】開発した学校給食メニューが３校で採用された。11月６日(金)西条小学校では「鯛塩ラーメン」、11月11日(水)小松小学校では「鯛のトマトソース」、11月16日(月)小松幼稚園では「里芋と鯛のコロッケ」が提供された。魚食普及のＰＲも兼ねて訪問した。	２年 10人
㈣　はだか麦（西条市は県内の市町村で生産量１位であるはだか麦について、特性を学ぶとともに、付加価値を付けた利用方法の研究に取り組んだ。）	
【講演会】９月28日(月)「課題研究」で、愛媛県東予地方局地域農業育成室より山口耕司氏を招き、「はだか麦の可能性」のテーマで講演会を実施した。はだか麦の種類や生産の歴史、加工品等はだか麦に関する基本的知識を学んだ。	１年 29人
【商品開発】10月「課題研究」で、はだか麦や押し麦を使用した「グラノーラ」や「ミネストローネ」「マシュマロバー」などを考案し、調理した。また、はったい粉を使用した「クッキー」や「蒸しパン」を考案、調理した。	２年 ４人
【はだか麦講習会】11月12日(木)「課題研究」で、西条市役所の子ども教室などでお菓子作りの講師をしている吉田早苗氏を招き、はったい粉を使用した講習会を実施し、「はったいころころクッキー」を調理した。香ばしいクッキーで、商品開発の参考になった。	２年 31人
【講演会】１月18日(月)「課題研究」で、地元パン屋「にじとまめ。」より店主の田中直子氏を招き、パン作りについての講演会を実施した。	１年 29人
【パン作り講習会】１月25日(月)、２月１日(月)「フードデザイン」で、パン作りとクッキー作りの講習会を実施した。	１年 29人
【はだか麦学習会】２月12日(金)伊予農業高校とのリモートによる学習会を実施した。はだか麦の加工品や料理など幅広く活用している研究を学んだ。	２年 31人
㈤　商品開発に向けて	
【講演会】10月１日(木)「課題研究」で、コンソーシアム構成団体である株式会社マルブン社長の眞鍋氏を招き、「商品開発に向けて」をテーマに講演会を実施した。マーケティングや商品開発のための要素などを学習した。	２年 31人
【デザインの基礎】11月「美術Ⅰ」「数学Ａ」で、ロゴマークやパッケージに活用するためのデザインの基礎を学習した。地元事業所から依頼されたクリーニングバッグに、小松町の椿も取り入れてデザインを作成した。	１年 ６人 ２年 31人
【講演会】１月21日(木)、２月12日(金)「課題研究」で、西条市で食品コンサルティング会社を立ち上げた長尾愛理氏を招き、「パッケージデザインの作り方」の講演会を実施した。デザインや商品の価格、内容量など販売する場所によって違うこと学習し、デザイン画を作成した。	２年 31人
イ　地域課題研究	
㈠　生活文化見学	
【生活関連産業見学】２月16日(火)今治市で、生活関連産業を見学した。タオル美術館で、タオル製造過程の見学やタオルを使った作品を鑑賞した。	１年 29人
【県内研修】３月４日(木)大三島で、「ところミュージアム大三島」や「今治市伊東豊雄建築ミュージアム」を見学した。	２年 13人
㈡　西条市の地域課題学習	
【地域課題ワークショップ】６月「課題研究」で、班ごとに地域の課題について意見を出し合うワークショップを実施した。	１年 29人
【ＳＤＧｓの学習】７月「課題研究」で、ＳＤＧｓの学習を実施した。これから研究する内容が目標に関連し、到達できるように活動する意欲を高めた。	１年 29人
【課題研究発表会】１月22日(金)「課題研究」で、丹原高校園芸科学科の課題研究発表会に参加した。西条市の特産品を活用した発表を聞き、意欲を高めた。	２年 15人
㈢　先進地視察（県外研修）	

【伝統産業視察・産業教育フェア視察】10月24日(土)別府市竹細工伝統産業会館において、施設の見学と竹細工の体験学習に参加した。地域産業である竹を有効活用した鈴を製作した。産業教育フェアでは、他県の高校の実践活動を知ることができた。	２年 ２人
【伝統産業視察】11月12日(木)・13日(金)香川県での視察を実施。小豆島では、オリーブ公園や醤油工場の見学、そうめん作り体験を行った。「ハーブオイル醤油作り」体験では、オリジナルのソースを作り、椿油活用の参考となった。	１年 29人
【伝統文化視察】３月13日(土)・14日(日)島根県江津市で、「島の星山　椿の里」の視察を実施した。椿の里を整備した経緯や椿まつりの様子などを聞くことができ、「椿千年の森」の活性化の参考となった。	２年 10名
㈡　伝統文化施設見学	
【和紙・水引】１月14日(木)、愛媛県産業技術研究所紙産業技術センターを見学した。四国中央市の伝統産業である和紙作りを学び、水引を使ったストラップ作りを体験した。	１年 28人
【和蝋燭・醤油】３月４日(木)内子町で、「木蠟資料館 上芳我邸」や「森文醸造」の見学をした。蝋燭だけでなく化粧品などにも使用されている木蠟の加工や醤油製造について学んだ。	２年 17人

② 地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け

ライフデザイン科を対象としたプロフェッショナル型事業であるので、教科「家庭」が対象教科である。その中でも、本年度の対象生徒である１・２年生が履修する「課題研究」「生活産業基礎」などが教育課程内における対象科目である。

③ 地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

教育課程に位置付けた「課題研究」「生活産業基礎」に加え、「家庭総合」「フードデザイン」「発達と保育」、学校行事、特別活動である食物部の部活動、課外活動である家庭クラブの時間などを利用し、事業を実施した。また、教科等横断的な学習の取組については、美術や数学の授業において、デザインの基礎を学び、クリーニングバッグや商品開発のためのパッケージデザインに活用することができた。

④ 類型毎の趣旨に応じた取組について

専門的な知識・技術を身に付け地域を支える専門的職業人を育成するため、地域の企業等との連携を図っている。本年度は、学校給食メニューの開発において、栄養教諭から講義を受けたり、多世代交流（第２～４回まちかど家庭科室～ふらっと～）として、幼稚園や小学校にメニューの紹介と魚食普及のために訪問したりした。また、椿の水引細工を作成して地域に配布したり、生徒が講師となって消しゴム判子を作成する講習会（第１回まちかど家庭科～ふらっと～）を開催したりするなど普及活動を実施することがきた。

これらの探究活動は、「課題研究」や「生活産業基礎」の授業中に外部講師による講演や料理教室を実施して得た知識を基に、課外活動においてレシピづくりを通じて付加価値を加えることを目指し、計画的に、「家庭総合」「フードデザイン」「発達と保育」の授業において実践している。今後は、科目のねらいをもとに、科目横断的な実践についても、カリキュラム・マネジメントの視点から研究を進めたい。

⑤ 成果の普及方法・実績について

ア　研究開発
【椿の消しゴム判子講習会】小松中学校にて、中学生と地域公民館の方に椿の消しゴム判子を作る講習会を開催し、椿の普及に努めた。
【「椿千年の森」の整備】【椿の実の採集】小松つばき会の指導で、「椿千年の森」の

整備、ネームプレートの作成、椿油製造のための椿の実の採集を行った。
【水引細工講習会】椿の水引細工の講習会を実施し、作成した水引にチャームやピンを付けて、西条市小松総合支所や公民館、子育て交流センターなどで配布した。
【クリーニングバッグデザイン】地元事業所から依頼されたクリーニングバッグのデザインに活用し、小松町の椿も取り入れたデザインを作成した。
【児童文化財の活用】魚食普及のためのエプロンシアターを作製。オリジナルのストーリーを考え、フェルトで魚などを作成。小学校と幼稚園で実践した。
【学校給食メニュー開発訪問】開発した学校給食メニューを３か所の学校で採用され、提供していただいた。魚食普及のＰＲも兼ね、メニュー紹介の訪問をした。
【研究成果発表会】１年間の研究成果をまとめ、発表会を実施した。コンソーシアムの方々だけでなく、本校普通科生徒が、リモートで視聴した。
イ　地域課題研究
・生活文化見学や地域課題学習、先進地視察を通して地域の課題を見つけ、その解決の手段について探究活動を行った。今後は、普通科にも学習を波及させる。 ・ＳＮＳの効果的な発信の方法を学び、今後課題解決のための情報発信を行う。

11　目標の進捗状況，成果，評価

⑴　目標の進捗状況、成果

本事業は設定した数値目標を実現した上で、「地域の産業に従事し、生涯にわたって地域に貢献したいと考える生徒の育成」「地域課題をふまえ、共生のまちづくりのパートナーとして高度な知識技能を身に付けようとする生徒の育成」「地域課題をふまえ、多様な立場の人や機関と進んで関係を構築する生徒の育成」を目指している。事業評価の指標として、43項目の生徒アンケート（資料１）を年間３回実施し、分析した。

資料１　生徒アンケートを実施する43項目（７月、11月、２月の年間３回実施）

探究		1地域社会の魅力や課題について考える学習活動の頻度
		2上記のような学習活動への熱心さ
生徒の成長		18将来の国や地域の担い手として積極的に政策決定に参加したい
		19地域をよりよくするため、私は地域における問題に関与したい
		20自分の住んでいる地域をよくするために何をすべきか考えることがある
		21将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある
		22私の参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない
学びの土壌	学習環境1	3地域の人と交流・議論・交渉する機会
		4地元企業の人と交流・議論・交渉する機会
		5学校の先生と交流・議論・交渉する機会
		6地域の仕事について知る機会
		7地域の文化について知る機会
		8地域の魅力について知る機会
		9地域の課題について知る機会
	学習環境2	10信頼できる学校の先生がいる
		11尊敬できる学校の先生がいる
		12本音で接してくれる学校の先生がいる
		13本気で接してくれる学校の先生がいる
		14信頼できる地域の人がいる
		15尊敬できる地域の人がいる
		16本音で接してくれる地域の人がいる
		17本気で接してくれる地域の人がいる

学びの土壌	安心安全	23失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある
		24挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある
		25目標や当事者意識を持って挑戦している人がいる
		26尊敬している・憧れている人がいる
		27誰かの挑戦に関わらせてもらえる機会がある
		28自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる
		29人と違うことが尊重される雰囲気がある
		30 ありのままの自分が尊重される雰囲気がある
	多様性	31 様々な立場や役割を持つ人との関わりがある
		32 様々な意見や価値観を持つ人との関わりがある
		33 立場や役割を超えて協働する機会がある
		34 意見や価値観を超えて協働する機会がある
	対話	35 本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある
		36 将来のことや実現したいことを話し合える人がいる
		37 周りの大人は、じっくりと話を聞き、考える手助けをしてくれる
		38 行動を振り返り、見直す(内省する)機会がある
		39 お互いに問いかけあう機会がある
	開かれた	40 地域から大切にされている雰囲気を感じる
		41 地域の人や地域課題など、興味を持ったことに対して、すぐに橋渡しをしてくれる大人がいる
		42 地域の人や課題などの現場に直接触れる機会がある
		43 自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある

※アンケートは４件法

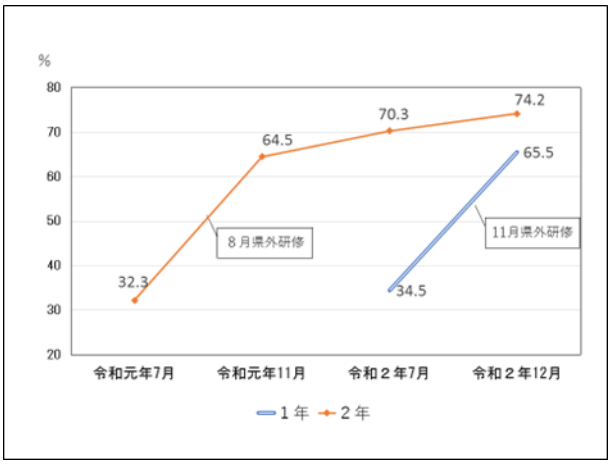
課題探究的な活動に係る２項目　学びの土壌に係る 36 項目、生徒の成長に係る５項目

（三菱ＵＦＪリサーチ＆コンサルティング「高校生と地域社会の関わりに係る実態調査」(2018)による）

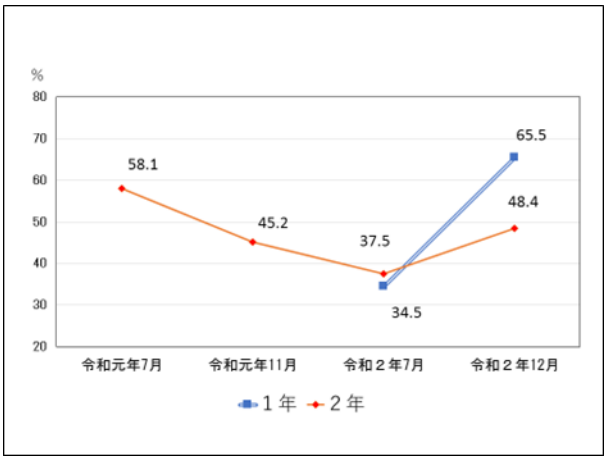
⑵　評価

資料２は、昨年度から研究に取り組んでいる２年生と今年度１年生の「地域の魅力や課題について考える学習の頻度」の変化を示したものである。今年度、新型コロナウイルス感染症の影響により、２年生は、地域への普及活動や県外研修が実施できなかったが、外部講師による講義・演習を基にした学校給食メニューの開発といった、校内でも行える取組を充実させたことで、生徒の意識も向上している。１年生は、本格的に研究を始めた時期が６月からであったこともあり、７月時点では、学習活動の充実は感じられていなかったが、「椿千年の森」の清掃活動や外部講師による講義、香川県小豆島への県外研修を実施できたことから、伸び率が高くなっている。

資料２「地域の魅力や課題について考える学習活動の頻度」



資料３「地域を対象とした問題解決に熱心に取り組んでいる」



※資料２・３は、昨年度１年生と今年度１・２年生の比較

資料３の「地域を対象とした問題解決に熱心に取り組んでいる」については、２年生は、昨年度よりも意識低下してきている。この原因としては、昨年度は実施できていた地域に出向いて行う普及活動や県内・県外への研修の機会が減ったことが考えられる。校内での研究活動は充実しているものの、その成果を発揮する機会が少なく、学校給食の訪問も少人数の生徒しか参加することができなかった。さらに、例年実施していた介護福祉施設や保育所訪問もできていない。これらのことから、地域との交流機会の重要さを、改めて確認することができた。３月には、今治市大三島と内子町への県内研修、島根県江津市への県外研修を実施した。これらの交流機会を経験することで、数値が向上すると期待している。

＜添付資料＞目標設定シート

12　次年度以降の課題及び改善点

⑴　本事業の目的は、地域課題研究を各科目に位置付け、体系的・系統的に学習するカリキュラムの研究を進めることである。本年度は、地域の生活産業・生活文化を知り、地域課題を発見・解決するため、該当科目である「課題研究」「生活産業基礎」に加え、１・２年生履修の科目である「家庭総合」「フードデザイン」「発達と保育」などの授業の中で、計画的に外部講師の講義や県内・県外研修、地域のイベントや施設を訪問し、普及活動を進めていく計画であった。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、計画通りに事業を実施できなかった。今後もこのような状況が続くことを想定し、製作した作品などをプ

レゼントしたり、オンラインでの交流活動を進めたり、有効な方法を模索して、事業の目的が達成できるよう工夫しながら、計画的に事業を実施できるよう、科目横断的な視点でカリキュラム・マネジメントを進めたい。

⑵　１年生は、椿・魚食・はだか麦など地域の生活産業・生活文化について基礎的な知識・技能を身に付けた。２年生は、昨年度身に付けた基礎的な知識・技能を基にさらに活動の場、活動内容を広げ、椿の小物制作による普及活動、学校給食メニューの開発と幼稚園や小学校との交流、商品開発に向けての取組などを行った。今後は、椿・魚食・はだか麦についての知識・技能を生かした商品開発とともに、県や全国レベルのコンテストへの挑戦、生徒が企画から関わる形での多世代交流の実施などを目指したい。

⑶　昨年度の課題であった他教科・科目と連携を図り、学校全体での研究開発体制を構築するため、全教員を対象としたワークショップを実施した。他教科・科目で、本事業と関連させた授業を実施する方策を協議した結果、「数学Ａ」と「美術Ⅰ」でロゴマークデザインに関連する内容を実施することとなり、より専門的な知識や技術の向上を図る授業を実践することができた。今後は、さらに多くの教科・科目で実施できる体制を整えたい。また、マニフェストにも地域協働に関する項目を加え、学校全体で取り組むよう体制を構築することができた。

⑷　高度な知識・技能を身に付け、多様な立場の人や機関と関係を構築しつつ、地域に貢献したいと考える生徒を育成することが、本事業の目標の一つである。そのため、生徒の現状をアンケートで把握するだけでなく、今まで実施した事業についての感想や事業を発展させるためには何をすべきか等、振り返りシートに書かれた内容や、必要に応じて個別に聞き取りを行うなど、細かく情報収集することが必要である。その内容を反映させ、より生徒が意欲を持って取り組めるよう、事業内容を改善していきたい。

⑸　コンソーシアムとの連携の在り方についての研究も本事業の目的の一つである。研究開発の成果を広め、地域の活性化を図るためには、現在コンソーシアムを構成する諸機関や、地域の飲食店・企業家・スポーツチーム他の官民の新たな諸機関との連携を模索していくことが重要である。その中で、将来にわたって継続できる持続可能な事業内容を検討して重点的に実施していくことが重要と考える。

⑹　研究成果の発信方法は、本年度もホームページが中心であったが、活動内容の動画を作成し、配信することができた（愛媛県教育委員会作成ホームページ）。今後も、マスコミの活用に加え、インスタグラムなどのＳＮＳの利用等も進めたい。